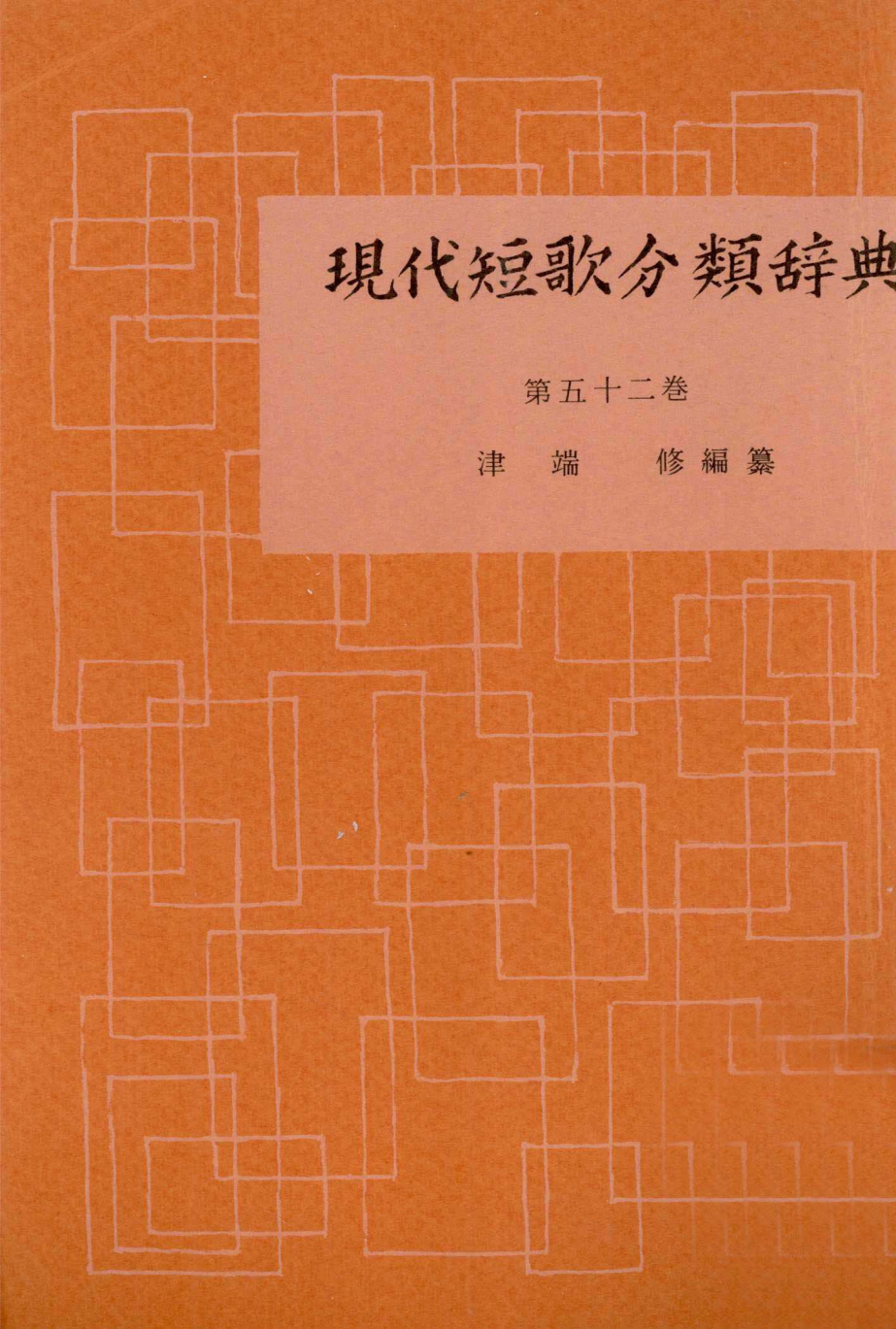




現代短歌分類辭典

第五十二卷

津 端 修 編 纂

津 端 修 編 纂

現 代 短 歌 分 類 辞 典

日本財団支援

笹川良一記念文庫

財団法人日本科学協会

現代短歌分類辞典

52

昭和五十五年二月五日発行

定価一、七〇〇円

著者発行
兼印刷者

津 端 修

〒413-05

静岡県賀茂郡河津町田中一四二

発行所

津 端 修

振替 横浜 一〇六九
電話 〇五五八三一―二八三

次
(第五十二卷)

1

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 ある
か

(23) (22) (21) (20) (19) (18) (17) (16) (15) (14) (13) (12) (11) (10) (9) (8) (7)

三二七三一三二九二四一二九八五一二八六二

“ 一四〇 一三三 一二三 九七 九六 ” 九五 ” 九四 九一 ” 八四 八三 ” 八二 八一

[illegible]

一 一 二 三 一 一 九 一 一 一 一 二 一 一 三 七 一

一四〇 一四一 一四二 一四三 一四四 一五七 一五八 " " " 一五九

ある限り①

同 ②

同 ③

同 ④

同 ⑤

同 ⑥

あるかぎり—の

あるかぎり—のみ

あるかぎり—は

ある—が—ごと

ある—が—ごとき

ある—が—ごとき—ぞ—と

ある—が—ごとくに

ある—が—ごとく—も

ある—が—ごとし

ある—が—ごとし—と

ある—が—ごとし—も

四

一

二

二

二〇

四

二

一

一

八

三

一

一三

二

七

一

五

一五九

〃

一六〇

〃

〃

一六一

一六二

〃

〃

〃

一六三

〃

一六四

一六五

〃

一六六

〃

歩か—され—る—し

歩か—され—をり

歩か—しめ

ある—かしら

歩かす

歩か—ず

歩かせ

歩かせ—し

歩かせ—て

歩かせ—に—けり

歩かせ—む

歩かせる

アルカディア

ある—か—と

ある—か—と—ぞ

ある—か—とも

ある—かな①

一

一

一

一

一

一

一

一

四

二

一

二

一

三三

四

三

三三

一七

〃

〃

〃

〃

〃

一六八

〃

〃

〃

一六九

〃

〃

〃

一七三

〃

一七三

歩き【動詞】

二六

二三九

歩き来りし

三

二四五

歩き歩きて

一

二四二

歩ききたれり

一

〃

歩き出さむ

一

〃

歩き来つ

一

〃

歩き出づ

二

〃

あるき来て

三

二四七

歩きいでし

一

〃

歩き来にけり

一

〃

歩き入る

一

二四三

歩きくる

一

二四八

歩きうつりし

一

〃

歩きくれば

一

〃

歩き得る

一

〃

歩きけり

七

二四九

歩き得るかな

一

〃

あるきけるかな

一

〃

歩き得ず

一

〃

あるきけるかも

二

〃

歩きおくれて

一

二四四

歩き来し

二

〃

歩き方

一

〃

歩き来しとて

一

〃

あるきがたしと

一

〃

歩き来しのみ

一

二五〇

歩き帰らな

一

〃

歩きざま

二

〃

あるき語り

二

〃

歩きさまよひて

一

〃

あるき帰る

一

〃

歩き去る

一

〃

歩きき

一

〃

歩きし①

二

〃

歩き―し―②	二五	あるきだし―た	一	二五
あるき―し―か	二	歩き出し―た―よ	一	二五
あるき―し―のみ	一	歩きだし―たり	一	二五
歩き―し―は	二	歩き出し―たる	一	二五
歩きそめ	一	歩き出す①	六	二五
歩きそめ―たり	一	同 ②	一	二五
歩きそめ―つ―と	一	歩き出す―と	二	二五
歩き初め―む―と	一	あるきだせ―ば	一	二五
歩き―たい	一	歩きたづぬる	一	二五
あるき―たか―た	一	歩き―給へ―と	一	二五
歩き―たかり―けり	一	歩き―たり	八	二五
歩き―たき	三	歩き―たり―けり	一	二五
歩き―たく―て	二	歩き―たり―し	一	二五
歩き―度く―ない	一	歩き―たり―とふ	一	二五
歩き出さ―う―と	一	歩き―たる	三	二五
歩き―たし	二	歩き―つ	一	二五
あるきだし―さう―で	一	歩き疲れ	一	二五

歩き疲れ—し
 歩き疲れ—た
 歩き疲れ—たり
 歩き疲れ—たり—けり
 歩き疲れ—つ
 歩き疲れ—て
 歩き疲れ—ぬ
 あるき尽す—も
 歩き—つつ
 歩き—続け
 歩きつづけ—て
 歩きつづける
 歩き—つつ—し
 歩き—つる
 歩き—て
 歩き—て—ぞ
 歩き—ては

一 一 六 二 一 三 二 一 四 一 二 五 一 一 一 一 二
 " 二七三 二六八 " " " 二六七 二六六 " 二六三 " " 二六二

歩き—ても
 歩きとほし—て
 歩きとほせ—し
 歩き—ながら
 歩き—ながら—に
 歩き—ながら—も
 歩きなれ—たる
 歩きにくかり
 歩きにくき—よ
 あるきにくく
 歩き—ぬ
 歩き—のこり
 歩き—ぶり
 歩き呆け—て
 あるきほてり—て
 歩き—まし—けむ—と
 歩き—ませ—う

一 一 一 一 二 一 三 一 一 一 二 一 二 一 二 二
 二八〇 " " " " 二七九 二七七 " " " " 二七六 二七五 " " " 二七四

歩く人

あるくーべき

あるくーべし

歩くーも①

同 ②

歩くーより

歩くーらむ

歩くーを

歩け

歩けーたら

歩けーたらーと

歩けーと

歩けーど

歩けーども

歩けーない①

同 ②

歩けーないーやーと

二 二 二 五 四 一 一 二 二 一 三 二 一 一 三

〃 〃 〃 三〇 〃 〃 三九 〃 〃 〃 三八 〃 三七 〃 〃 三六 三五

歩けーなくーなる

歩けーなくーなれーば

歩けーぬ

アール・ケネディー

歩けーば

歩けーよ

歩けーり

歩けーる①

同 ②

同 ③

歩けーるーが

あるけーるーかしら

あるけーるーだけ

歩けーるーと

あるーけれーど

アルゴ

アルゴイ

四 一 一 二 三 一 一 一 一 四 四 二〇 一 三 一 一 一 一

〃 〃 〃 〃 三九 〃 〃 三八 三七 三六 〃 三四 〃 〃 〃 〃 三三

ある—こそ	①	七	三四〇
同	②	一	三四一
同	③	一	〃
同	④	一	〃
同	⑤	一	三四二
ある—ごと	①	六	〃
同	②	六	三四三
同	③	三四	〃
ある—ごとき		五六	三四六
ある—如き—かな		四	三五一
ある—如く		八三	三五二
合 計		一、五六五	

昭和五十四年四月二十四日起稿
 昭和五十四年六月十一日 脱稿
 資料カード五七二、三〇〇首の内より

ある^⑭【動詞】

老学徒の余生を悔いずあるわれなり 新入生歓迎の演壇に立つ^⑳

遠山のただ横ざまに長きかな地上のちから限りあるため^㉑

肋骨カリエス盲腸胆石の手術の痕我ある限り消ゆることなし^㉒

六十になり今日六十になり健康な自分であることに平安となる^㉓

六十年昔をかたるまなざしのきびしきながら涙ある人^㉔

炉のほとり飄われ敷くとらに在る羚羊に在る山荘の客^㉕

炉辺の絵見てあるほどにほのぼのと伽羅白檀の炭の香ぞする^㉖

論客と世評ある人の歌論読みしが何の感興も我に湧かざりき^㉗

論語の中に書き有る顔回の日常はわれに救のごとし^㉘

倫敦の放送入りて今宵きこゆ少し訛のある日本語^㉙

汪精衛帝都に在る日ななかまど咲く高山を我は越えゆく

ある

土岐 善麿

與謝野 晶子

隅田 葉吉

矢代 東村

米倉 久子

與謝野 晶子

吉井 勇

塚田 菁紀

鈴木 金二

松村 英一

依田 秋圃

ある

わが足はしかと大地につきてありつきてある事を喜びとする⑤

わがここにある終りまで散りはてじ寂しき白の残る李花かな②⑥

わがここあまりに清く在り経ては策ある世をし疎みもぞする④

我心に正しと思ふくさぐさを言ひて罪ある御代ならざらむ①

わがここに開くいのちの蓮華蔵 形あるものはかぎりありけり②⑦

わが心ゆたかに保ち支へくるる君ある故に吾は生くるなり②

わが子らよ歴史あるわが「詩歌」を愛して呉れよ真実愛してくれよ①⑦

わが思想時に疑ふことありてかく生きてあることに慌てぬ②

わが住みし駿河の名ある茶羊羹分ち味はふこの朝膳に④

わが住める山の続きに神達のあるこちする元日の朝①⑤

吾が生活世にかかはると若しいはばここにあるババリア製鉛筆一本

わが席より見れば距離ある階段を人ののぼるが画面のごとし⑥

佐佐木信綱

與謝野晶子

岡野直七郎

花田比露思

土岐善麿

齋藤喜博

前田夕暮

塚田菁紀

奥貫信盈

與謝野晶子

土屋文明

岡野直七郎